足立
70年記念の分会旗を贈呈
拡大の労もねぎらう

【足立・書記・浪江紀之通信員】1月30日、浅草ビューホテルにて「足立支部結成70周年・新春旗開き」が開催され、総勢262人が参加しました。

伊嶋実行委員長の開会挨拶に続き、武藤支部執行委員長・太田衆議院議員・近藤区長より挨拶を頂戴しました。その後、1年の門出を参加者全員で乾杯し、武藤委員長より近藤区長へ募金（育英資金）目録贈呈が行なわれました。引き続いて、ご来賓の皆様からのご挨拶を頂戴した後、70周年記念DVDが上映されました。東京土建の歴史や仲間の懐かしい映像に、時折笑いや拍手が起こりました。

拡大表彰では年間実増・目標達成分会の代表者に拡大功労金が授与され、その労をねぎらうと共に拡大の功績を祝いました。今年は結成70周年を記念し「永年組合員表彰」「分会旗の贈呈式」が行なわれました。

70周年記念と染め抜かれた分会旗を代表して受け取る花畑分会の坂本分会長

西多摩
地域根ざし50年
尽力讃え永年表彰も

【西多摩・とび・高山勝宏通信員】1月27日、立川グランドホテルにおいて、西多摩支部結成50周年記念式典・祝賀会が開催されました。参加者は組合員180人、来賓は72人で、午後2時より第1部の記念式典が執り行われました。

式典での山口委員長のあいさつでは「50周年に至るまで、私たちは建設労働者の命とくらしを守り、技能の向上と若年技能者の育成を進め、また、地域の中では住宅デーや親子工作教室などで地域に根ざした組合をめざしてきました。この先も建設産業で働く、多くの仲間の生活を守り、地域の諸要求実現に向けて、より一層の努力をしていく」と決意を明らかにしました。後半では、式場書記長により、50年間のあゆみの紹介が映像と解説で行なわれ、建設職人の社会的地位の向上のためたたかってきた支部の歴史をあらためて感じました。

式典では、創成期から現在まで50年以上、組合員として運動にご尽力をいただいた10人（出席は5人）のみなさんを永年組合員として表彰を行ないました。

乾杯で壇上に並ぶ西多摩支部と来賓の本部役員の皆さん

節目を祝い未来を開く

息を合わせて鏡開き。中央が向井八王子支部委員長

八王子
50年を振り返る
五重塔、山門に感嘆の声

【八王子・電気・矢吹一幸通信員】1月27日、京王プラザホテル八王子において、八王子支部50周年記念式典を開催しました。本部、多摩南ブロック、親支部の多摩西部支部、都議会議員、八王子市長、市議会各会派の皆様や友好団体、歴代委員長・支部結成当時の組合員の方々42人を来賓として迎え、120人が支部結成50周年の節目を盛大に祝いました。

式典会場前には記念誌の表紙を飾っている作品「五重塔」と「山門」が飾られ、来場者たちを迎え入れました。これは第8分会の大曽根一忠さんが仕事の合間に長い月日をかけ作った作品です。来場者たちはその木製模型の精巧さに感嘆の声をあげていました。

向井委員長、矢吹実行委員長のあいさつの後、市長をはじめ多くのご来賓からご挨拶をいただき、鏡開き、乾杯と会は進みました。アトラクションはローズブロッサムによる弦楽四重奏で、ジャズから懐メロまで幅広い選曲で参加者を魅了しました。

プログラムの最後、久保書記長による「支部50年の歩み」をスライド上映と共に振り返り、加藤副委員長の一本締めで閉会、多くの方々と50周年を祝う事ができました。

アスベスト2陣年内判決も
たたかい強化しよう

東京地裁前でシュプレヒコール

1月25日、東京地裁103号法廷で、首都圏建設アスベスト訴訟東京ルート第2陣の第26回期日が行なわれました。この日の法廷では原告弁護団があらためて一人親方が救済対象であることを、国側の反論も踏まえ、意見陳述するなどがなされました。

法廷開会前、地裁前で約300人（東京土建は117人）が参加して集会を実施。マイクを握った佃弁護団事務局長は「2陣は7月に結審し、今年中に判決が出る可能性もある。そこでは、東京高裁・神奈川ルートや大阪高裁の2つの判決をさらに確固としたものにする判決を勝ち取り、1陣の最高裁での判決を底上げする」と2陣のたたかいの意義を語りました。原告共同代表の吉田さん（村山大和）は「これからアスベストの使われた建物の解体がピークを迎える。私のように被害で苦しむ人を出さないようにするためにたたかう」と決意表明しました。参加者は国会議員会館に移動し、報告集会、議員要請を行ないました。

春闘集会
連帯し大幅賃上げ
松本副委員長が発言

壇上でアピールする東京土建の仲間

1月30日、杉並公会堂で「2019年国民春闘勝利！総決起集会」が開催され、850人（東京土建は288人）の働く仲間が結集しました。

主催者あいさつを行なった東京春闘共闘会議代表の荻原淳さんは「大幅賃上げ、労働条件改善や国民的課題での前進を掲げ全力でたたかうと同時に、市民と野党の共闘、行動を広げながら、改憲阻止、安倍政権打倒ですべての働く仲間が総力を挙げましょう。本気でがんばろうではありませんか」と呼びかけました。

野村幸裕国民春闘共闘委員会事務局長が映像をはさみながら基調報告を行なった後、集会参加の単産、職場の仲間からの決意表明。東京土建を代表して松本久人副委員長は昨夏の丸の内3―2計画の現場改善のたたかいの前進を報告した上で「建設労働者がんばってこそ東京五輪の成功もあると自負している。賃金引き上げのために、他産業の皆さんと連帯してたたかいます」と力強く発言しました。

ストップ消費税10％
池袋駅周辺でサウンドデモ

「増税より給料上げろ」とシャウト

昨年12月14日に著名人や学者の呼びかけで結成された「10月消費税10％ストップ！ネットワーク」の主催で集会が行なわれ、東池袋の日出第2公園に約100人の市民（東京土建から30人）が集まりました。

呼びかけ人である醍醐聰東大名誉教授、住江憲勇全国保険医団体連合会会長のあいさつを受けた後、池袋駅東口周辺をサウンドデモ。「ストップ♪ストップ10％」「消費税上げずに給料上げろ」などテンポのいいコールに沿道の人々は注目、首をふってリズムに合わせるコスプレの若い女性、仕事を止めて笑顔でデモに手をふる店舗内装工事をする男性などが見られました。

コールの合間には「安倍内閣は増税で消費の落ち込みを心配し、ポイント還元や商品券を発行し、集めた税金よりたくさん返すと言い出しました。だったら初めから増税しなければいいではないですか」などと訴え、今回の消費増税の問題を知らせました。